

歳末放談会

2023年、未来予想

と き 令和5年10月26日(木) 16:00～17:30
ところ 山口県医師会6階 会議室

司会 本日はお集まりいただきありがとうございます。2023年の歳末放談会を始めたいと思います。

まず、加藤会長にご挨拶をいただきます。

加藤会長 この時期に「歳末」というのは、ちょっと、ピンとこないようなところもあるんですけども。特に今年なんかは、今日もまだ日中は暑いんですから、もう少し寒くならないと歳末という感じがしないのですが、この歳末放談会は12月号に載りますので、このタイミングでお話したいと思います。

きょうのテーマは「2023年、未来予想」ということで、小さいころの夢や今後の夢とかを語っていただけるのではないかと楽しみにしています。

働き方改革は、来年から時間外労働規制が始まります。かなり進んではいるようですが、実際には、年間1,860時間とか、とんでもない

時間も許容されています。そのあたりがどんなふうになるかということも、皆さんの意見をお聞きしたいと思っています。本日はよろしくお願いたします。

(自分の)働き方改革

司会 それでは早速、放談に入らせていただきます。巷のほうでは、2024年問題について、物流と建築業界の働き方改革の問題にも焦点が当たっています。ときどき医師の働き方改革も取りあげられるようですが、医師会ですから、医師の働き方改革を最初にお話ししていただければと思います。

労働基準法の改正によるものですから、働き方改革の対象になるのは一応、勤務医になります。県医師会としては、働き方改革に関してどのように取り組まれているかをお話したいと思っています。



◆ 県医師会は、勤務医部会を中心に、働き方改革に関してシンポジウムを開いたり、座談会を開いたりして、ずいぶん早くから対応しています。

臨床研修病院にアンケートを行い、県医師会報に結果を出したりしています。そもそも960時間働くというのは、とんでもない時間だと思っていますので、今まで放置された問題が、結局、積もり積もって、ここに来ているのではないかと思っています。

医師数も、本当に足りているのか、そんなことも思ったりしますが、日医のほうにも問題提起しているような状況です。

まだ全部の情報は入ってきていませんが、県内で、おそらくA水準ではない、B水準、C水準での申請というのは、県立総合医療センターと大学だけなのではないかと思っています。私の病院は、A水準で行くようになっています。

司会 A水準といっても、年間960時間、月80時間ですよ。私は産業医をしています、月80時間だと、長時間労働で必ず面接をしてくれと言われるのですが、医師をしていて、そういった面接があった覚えがありません。結局、医師が働く現場では、労働基準法なんて、あってなかったようなものだと思います。私が若いころは、朝の7時に出て行って、帰るのは夜の9時、10時が当たり前でした。

◆ 救急患者さんが来る輪番日は全部、時間外として申請するのかなと思ったら、労基署の考え方は、輪番日の中でも、患者さんが集中して来るのは、だいたい夜中の10時とか11時ぐらいまでなんです。それ以降って、本当に少なくなるんです。その少なくなった夜の10時以降、翌朝の8時ぐらいまでは宿日直扱いにしてもいい

とか、そんな感じですね。だから、ファジーなところはありますね。

私は最初、全部時間外としてカウントして80時間以内にするのは結構きついかもしれないなと思っていましたけれども、そういうふうに分割できるのであれば、たぶん収まるのではないかなと思っています。

ただ、うちの病院はまだ労基署の最終判定が来ていないので、実際にどうなのかは分かりません。ただ、全部を勤務として扱ったら、とても回らないから、妥協でそうなったんじゃないかと思います。

例えば学会の発表とかは自習なのか、業務命令による仕事なのか、非常にファジーなところがありますよね。そういうところも問題と言えば問題かもしれません。

司会 ほかに皆さんどうですか。ご自身で、働き方の改革で、なにかやっておられることがありますか。

◆ 開業医的な視点から言わせていただきます。勤務医の方とか、自分のクリニックを含めた従業員にとっての働き方改革というのは、とても重要な案件だと思います。自分が若手の勤務医であればラッキーと思ったかもしれません。開業医の場合、借金があるか無いか、などで違うと思います。まだ借金が残っている場合は、働き方改革以前にしっかり働いて、事業を安定させる必要があります。

医療業界は、20～30年前と異なり、先行き不透明となってきました。さまざまな問題点が山積していますよね。まず、医師数に関しては、厚生労働省によると、自分が医師になった1998年では総医師数は25万人弱でしたが、医学部定員

出席者

広報委員

川野 豊 一 藤村 智 之
岸本 千種 田村 高志
吉川 功 一
岡山 智 亮

県医師会役員

会 長 加藤 智 栄 常任理事 長谷川 奈津江
副会長 沖中 芳彦 理 事 藤原 崇
副会長 中村 洋 理 事 岡 紳 爾
専務理事 伊藤 真 一

増などによって、2020年のデータで約34万人と1.4倍ぐらいに増えています。

次に、中医協が医療費の総額を1%、2%と増額できた時代は終わってしまって、決まったパイを、増加した医師同士で分配する図式になっています。さらにひどいことに、いわゆる損税問題、すなわち社会保険診療が消費税非課税になっていることが原因で起こる、医療機関の消費税払い過ぎ問題については、先日の10月15日の医政活動研究会で、日医の城守（国斗）先生がお話くださったのですが、全く解決していないどころか、解決するには途方もない労力が必要ということで、現実的ではないということらしいので、愕然としました。

まとめますと、医師数増加、医療費改定率は、中医協じゃなく、もう既に内閣が決めることになっている、損税問題と問題が山積してしまっていて、さらに次回の診療報酬改定でも他業種のように3%から4%増が難しかった場合はどうなるかということですよ。

法曹界は、2006年の司法制度改革で人数を大幅に増やしたため、弁護士は大ダメージをくらいました。医師も弁護士と同じ道を歩むことが、もはや既定路線なんじゃないかというくらい、同じような路線を歩んでいるような気がします。受注競争が激化して、平均年収が弁護士は激減したという話ですよ。開業医で業務量を自主的に減らすとどうなるか。これは、すなわち終わりの始まりなんじゃないかと私は思っています。

◆ 開業医は、診療所の管理者は働き方改革の対象外ですね。職員のことを考えて、診療時間を短くしないといけないということはあるかもしれませんが。

◆ 医師の数がとても増えているんですけども、日本の医師の数は90歳になって医師をやっている人もカウントしていて、まあ、数だけで言っているのはかなり問題で、本当に労働力として見た場合、もっと厳密にやらないといけないし、欧米との比較にはならないですよ。向こうはもう65歳ぐらいになって完全にリタイアし医師とし

てカウントされていません。

日本の場合、死ぬまで医師という格好でやっていますけれども、70歳を過ぎたら、やっぱりパワーが落ちますよね。だから、そのあたりのカウントをどうするかという話があるし、それから女性医師が増えており、どうしても出産、育児があるから、その分は少し下げてカウントしないと、本当の問題にはならない。それから、専門医がどんどんできてきて、昔は一人でなんでも診ていたけれど、今は自分の専門以外を診ないような格好になっているから、医師の数は増えていても、数字だけのデータというのは、ちょっとごまかされているんじゃないかなと私は思っています。

司会 結局、やはり医者数が足りないということでしょう、特に田舎は。臨床研修制度が変わって、医師をいろいろなところに配って回るというシステムが、特に田舎のほうは崩壊してきた。最近、それが少し是正されてきたと厚生労働省は言っているようですよけれども、それにしても、やはり医師が足りない。では、医師を増やしてどうなるかということ、先ほど言われたように、パイが限られた中で、それを分けていけないといけない、一つ一つのパイが小さくなるという問題が出てくる。

おそらく、もう少ししたら、医者になりたいという人間が今以上に減ってくるのではないかと思います。皆さん、どう思われますか。

◆ どうですかね、景気があまり良くないうちは医学部人気は衰えないかなという気はします。医師数を増やせば単純にうまく回るようにはなるんでしょうけども、長期的に考えるとパイが小さくならないようにという保身的な考えでなかなか増やせないでしょうね。

この問題を考えていつも思うのは、今医師数を増やして、長期的にみて困りだすのは今の若い世代なので、正直私たちにあまり関係はないかもしれないという意味では、若い先生がそのあたりをどういうふう考えているのか知りたいところではあります。

◆ 私は開業医なので、正直この話題は半分蚊帳の外というか、それこそ今回この放談会でやるからどんな問題なのか分かってきたというぐらいのレベルです。まだ知らないところ、理解してないところもいっぱいあるんですけども、宿直扱いになると時間外の時間には入らないですか。

◆ 時間外勤務の中に入らないんです。だから寝当直と同じような扱いなんです。

◆ 前々から、当直明けでも通常勤務、休みはなし、というのは大きな問題だと思ってました。このたびはそういう意味ではあまりそこは解決にはならないのでしょうか？

◆ 勤務間インターバルというのがあって、もし28時間続けて働いたら、それは休まないとだめです。だから、やっぱり厳しくなるし、人のやりくりが大変になると思います。ふらふらになりながら働くことを抑制するという意味では、一歩前進というふうには思っています。

◆ 以前から思っていることですが、日本の時間外労働とかを考えたときに、もう少し患者さん側の医療職に対する精神論的な考えを変えていかないといけないと思います。例えば、時間外、休日だろうが深夜だろうが、病棟で何かあれば患者側は主治医が出てきて対応して当たり前みたいな雰囲気ありますし、救急外来だって当直医が専門外の場合は休暇中だろうが夜中だろうがその専門の医師が呼ばれて入院させて指示まで出して当たり前みたいな・・・日本の文化なんだろうけれども、もう少し欧米式にしていけないといけないと思いますね。例えばもう時間外には主治医は出てきてはいけないぐらいのシステムがあって然るべきですし、当直時間帯は当直の医師がすべて対応して、その代わり翌日、その当直医師は完全にオフにするなど、もっとオン・オフをはっきりさせて行かないともたないと思います。そのあたりのやり方を難しくしているのは医療側というよりは、むしろ患者側の感覚だと思うんです。つまり医療界の中だけで改革しても仕方ない、もう

ちょっと外に向かってアピールするということが必要のように思います。

◆ 2日続けて働くというのは、もうしなくていいとは思いますが。

それと、やはり人が足りないのだと思います。人がいっぱいいれば、チームで診ていくというスタイルになると思いますけれども、なかなか、そんなふうになりません。私もチームでやろうと思って、2人主治医とかにしていましたけど、実力差があり過ぎるし、よく診る先生と全く診ない先生がいると、片方に全部負担がかかったりして、概念的には、チーム制にすればうまくいくんだけど、現実には、なかなかうまくいかないというところがあります。だから、人がやっぱり増えないと難しいんじゃないですかね。

あと、救急に対しての国民の意識というのは、病院に行けばなんでも診てもらえるみたいな感覚でいるけれども、全科を一人で診ているわけだから、そんないろいろなことができるわけないことを理解していないですよ。また、そのことをあまり訴えてはないですよ。それが問題なのかなと思います。

◆ ちょっと勘違いもあるかもしれませんが、当直医派遣元の病院が派遣先病院に宿日直許可を取ってほしいと言っているらしいですね。で、仕事をさせないでくれと。そうすると、今まで夜間に急患対応をしていた病院では、当直医以外の人がないといけないんですよ。病院の人が急患用に対応しないといけないとか、そういうことも起こってくるのではないかと思います。で、実際に宿日直許可が取れて、働かなくていいようなところには医師を出すけど、実務の多いところから切っていくという話を、ある先生から聞きました。

例えば、休日診療所とかは8時間ぐらい働かないといけないところには、もう出さないとすると、医師会にその分負担が増えますからね。医師会も無関係ではないですね。

一人当たりの勤務時間が短くなると、人数が要りますよね。働き方改革で、残業が少なくなると、当然、収入も減るわけで、それは仕方ないですけど

ど、それでいいんですかね。そういうことも思ったりします。

◆ 当院は有床診療所で透析に携わっており、月、水、金の週3回、夜間透析を行っています。アルバイトで市内の総合病院と大学病院から先生に来ていただいて、夜間透析を担当してもらっていますが、宿日直許可を得ないと、当院での勤務時間が労働時間に加算されるとのことで、今回労基に申請して宿日直許可を得ましたが、なかなか面倒でした。今後、地域医療を守るために、特に総合病院に勤務されている先生にじっくり休養を取って、よりよい医療を提供していただくのが今回の働き方改革の大前提でありますので、労働時間を遵守しなければならないのは分かるのですが、救急医療が上手く機能するのか危惧しています。

◆ 救急はやっぱり、一番問題になる可能性が高いですよ。

◆ 自分が卒業した年に、山大病院にMRI（当時はNMRと呼ばれていました）が入って、すごいものが入ったんだと思っていたら、技師さんとかの関係なのか、これは平日の日勤帯しか撮れません、週末は撮れませんって言われてました。ああ、NMRってそんなものなのかと思っていたら、今やもう24時間365日、脳梗塞が来たら絶対やるし、場合によっては胆嚢炎とかもMRIを撮っていて、それまではそんなものなくてやっていたのに、結局、何年かしたらもう、24時間365日稼働しているんだというので、それですます忙しくなっているところもあると思います。

だから、先生が言われるように、救急でも、普段と同じような医療を国民が求めてきて、それに応えないといけないという状況になってしまっているんでしょうね、恐らく。昔だったら「まあ、そんなもんよね」って流れていたのが、どんどん先進化していくと、どんどん仕事が増えていって忙しくなっていく、という流れもあるのかなど思っています。

◆ 平日昼間と同水準の医療を夜間や休日に要求することは不可能だという認識を国民の中に醸成して共有する必要があると思います。3、4日前、新聞に宿日直について匿名医師への取材記事が結構大きく掲載されていました。その医師は夜間救急対応もしているのもかかわらず、宿直抜いで、時間外手当もちゃんと出ていない、翌日も連続勤務している、宿日直制は医師の働き方改革に反するという趣旨です。不正を指摘するというわかりやすい正しさを持った、一面的な観点でした。じゃあ、その夜間勤務した医師が翌日帰宅するようになれば、それこそ以前某新聞が糾弾していた救急車のたらい回しが頻発するだろうし、深夜緊急受診した患者は翌朝専門医が来るまで待たされるような医療体制を国民が受け入れなくてはならないという報道が抜けていると思います。

最近、郵便局は土曜日の配達を止めました。民間の宅急便も、来年からは時間がかかるという情報が発信されています。一方、この医師の働き方改革が国民の生活に与える影響についてはマスコミ報道が少なすぎます。若い医者を無茶苦茶働かせているブラックな医療機関はけしからんという短絡な報道も多いです。やはり医療サイドからもっともっと訴えないといけないと思います。

司会 救急車を有料化するというのの一つの手だと思います。いろいろな方が救急車に乗って来ます。回転性のめまいが生じたので救急車を呼んだとか、3週間前から便秘して、おなかが苦しくなったから、夜中の3時に救急車を呼んだとか、とんでもないことで救急車を呼ぶ方もおられますから。ほんと、タクシーと思っているのでしょうか。タクシーならタクシーで、料金を取ったらどうかと私は最近思っています。

◆ 昔、調べたことがあり、自治体レベルで救急車の有料化を審議したことがあるのですが、住民の理解が得られないということで、否決されています。だから、どういうふうに国民に訴えていくかというのは難しいですよ。でも、言うしかないと思うんですけどね。

司会 病院はコンビニではありませんということ
を地道に言っていけないとしようがない、という
ことでしょう。

◆ ごみの分別が進まないの、「燃えるごみ」
じゃなくて「燃やすしかないごみ」に言い方を変
えようというのを聞いたことがあります。「歩け
ない、タクシーにも乗れない人のための救急車」
みたいな感じで、枕言葉を付けるといいんじゃな
いかと思いますけど。

◆ 昔読んだ本に、スイスは山岳での事故が多
いので、結構、ドクターヘリが飛んでいるんです
けど、それは基本的にそれを運営する会に会費を
払っている人がそれに乗れると書かれていました。
だから、救急車はタダじゃなくて、救急車に
乗る税金じゃないけど、なにか別のそれを運営す
るためのサブスクみたいにするべきではないのか
と。有料とは、ちょっと意味合いが違うのかもしれ
ないですけど、スイスではそうしないと乗れな
いようにしているみたいです。

山口県のドクターヘリについて言いますと、と
きどき、「救急車で来ても変わらないんじゃない
の？わざわざヘリ飛ばすの？」みたいな場合もあ
るんですよ。以前、意識がなくて畑で倒れていた
人がヘリで運ばれて来たんですが、いろいろ調べ
たけれどもなにも異常がなくて、そのうち意識も
はっきりしてそのまま自宅に帰られた人がいて、
「ええっ？」と驚いていたら、どうも県のほうも、
ドクターヘリの予算を取っているの、年間どの
くらい飛ばさないといけないとかあるらしいんで
す。大学にドクターヘリ用に雇われている人が待
機しているわけですね。だから契約上、年間ど
のくらい飛んでもらわないと困るといって、予算
が付いているから、これを維持するために年間の
飛行回数が要るのだみたいなことを、本当かどう
か知りませんが、ちらっと聞いたので、それもな
にか本末転倒だとは思いますが。

司会 昔から、厚生労働省は、医師や看護師など
の医療従事者の良心と犠牲に頼ってきました。今
回もまた、それに頼って乗り切ろうとするという

だけだと思います。私は、医者が増えてい
るというけれども、増えているという実感が
ないし、医師の数が増えないと、働き方改革に
ならないであろうと思いますし、なおかつ、「
バック・トゥ・ザ・フューチャー」に出てきた
ピザみたいに、パイの大きさを大きくしな
いといけないだろうと。

子どものころの夢と現在の夢、20年、30年後の将来

司会 次は、「子どものころの夢と現在の夢、20
年、30年後の将来」というお話のきっかけとして、
日本の未来はどうなるかという、子ども向けの資
料を見つけました。これを見ると、いろいろなこ
とが書いてありますが、なんだか、だんだん暗く
なるという気がします。こうすればよくなるとか
書いてあるけれども、できていないじゃないかと
いったことばかり書いてあります。

私の中学高校時代は高度成長期で右肩上がりの
時代でした。1990年ごろバブルが崩壊して、そ
れから先はずっと、失われた10年、20年、30
年となって、この先、何年まで延びるのか分か
りませんけれども、そんな時代で、皆さんの夢は
どうでしょうか。教えてください。

◆ このテーマを出したのは私なのですが、なぜ
これを出したかという、ほかの先生方と雑談す
るときに、「先生は、いつまで医師としての仕事
をされますか」みたいな話をします。日本人は一
生医師であるという話もさっき出たかと思いま
すが、先生方がどういうふうに考えていらっし
やるか、医者としての仕事をしながらも何かほ
かの「野望」を持ちながら働いていらっしやる
のか気になって、話題になればなと思い提案し
ました。

私自身が、具体的なビジョンは持っていない
んですけど、地域で子どもとお年寄りが同じ空
間で楽しめるような場を将来つくれるといいな
あと思っていて、そういう野望を抱いています。
そこで、皆さんの夢も聞かせていただけたらな
と思っています。ちなみに、子どものころの夢は
相撲取りでした。

◆ 子どものころの夢は、路面電車の運転手
でした。乗るたびに一番前に乗っていましたから。

- ◆ 広島ですか。
- ◆ 福岡です。
- ◆ 福岡にあったんですか。
- ◆ 昭和50年ごろまで。昭和50年に半分以上がなくなって、それから2、3年で、全部なくなりました。
- ◆ いいですね、路面電車。
- ◆ 全国各地で路面電車が少なくなりましたが、今、電車を持っている街は魅力的ですね。高齢化で車に乗れなくなる人が増え、買い物難民が問題となっていますから。
- ◆ 鉄道好きなので、電車の運転手は、私もそうでした。今でも電車の先頭に乗りたいタイプです。でもあそこにへばりついて見るのは結構恥ずかしいので「混んでるしそこしか乗るところがなかったんです」みたいなふりをして、前をずっと見ていたり今でもよくします。
- ◆ 鎌倉に行ったときは、江ノ電の一番前に乗りました。
- ◆ 私も、電車の運転手です。10年以上前ですけど、プレイステーションというゲームで『電車でGO！』というソフトが出て、これはすごいと思って、すぐ飛びついて、専用コントローラーまで買いました。
- ◆ それ、私も持っています。前面展望のDVDとか出ていて、YouTubeでも。あれを見ながらボーっとするのが大好きです。
- ◆ 野望についてはいかがですか。
- ◆ 一時期パイロットにもなりたかった。だけど、なんでやめたのかあまり覚えていません。
- ◆ 視力？
- ◆ 視力だったかもしれないです。昔は、裸眼視力でしたから。今は矯正視力でいいようです。でもパイロットの採用試験というのは、やはり厳しいようです。
- ◆ 養成費は、医者より高いでしょう。
- ◆ 医者より大事にされています。国際線のパイロットは、連続8時間しか操縦できません。
- ◆ 当直明けのパイロットの操縦する飛行機に乗るのは絶対嫌です。
- ◆ 8時間を超えるフライトの場合は、3人。機長が2人とコパイが1人。必ず機長が2人のうち1人いないといけないから、機長が2人要ります。だから、最初の4時間やったら1人が抜けて、次の1人が入って、そして4時間たったら、最初から8時間たった人が抜ける。ものすごく大事にされている。多い時には500人もの命を預かっていますからね。
- ◆ 医療と比べ物にならないほど、航空業界は安全にお金をかけているということですね。
- ◆ 野望といいますか、子どものころからの夢ということで、電車の運転手とか言われていたけれども、私は、子どものころに見ていた『マッハGoGoGo』というアニメとか『サンダーバード』とかで、こんな乗り物が将来できるのかという、科学技術の進歩を、自分が大きくなれば、いろんなことが実現されるんだなあ、と、すごくワクワクしながら小、中、高くらいまでは、いたような気がするんです。
AIのシンギュラリティという問題が出てくると、文明とかそういうことが自分たちのコントロールを超えていってしまった先はどうなるんだろうとか、じゃあ、自分が小さいころに、無邪気に、すごく明るい未来が開けているんだぞと思っていたことが、いや、実は違うんじゃないかなとなる

と、人間って、本当に自分が欲するものを正しく欲することができるのだろうかとか、なんかそんなことを、もやもや考えているので、20年後、30年後というのは、僕から考えると非常に暗いなあとというところもあって。

ちょっと話は変わるんですけど、実家に今、どうにかつづけている田んぼが2面あって、そこをどうしようかなあと思ったときに、これは全く夢物語なんですけど、ひょっとしたらオリーブとかレモンとか、ああいう地中海系の作物が育てられないかなあと思ったりして、それで、もしそれがうまくいったら、それからちょっと調理師学校に通って、イタ飯屋をしたいなど。それが、20、30年後の将来ということで、あえて暗いところを見たくないの、そういうことをしたいなど、ひそかに思っています。

司会 20、30年後は、たぶん温暖化で、オリーブとかオレンジとかレモンがいっぱいできるでしょう。

◆ 野望はないですね。時間に余裕を持って日々の生活を整え、あとはもう大過なく人生を送ってければいいです。

小さいころの夢といえば、そのときそのときで読んでいた本の主人公に憧れるみたいな感じで、特に具体的な職業とかはなかったけど、やっぱり『若草物語』に出てくる二番目の女の子には憧れました。

司会 整いたいというのは、サウナが欲しいということですか？

◆ 『家庭画報』のイメージです。掃除の行き届いた家で、庭からつんだ草花を愛でながらハーブティーをいただくみたいな。

◆ 私は、幼稚園のときお店を持ちたいって書いていたんですね。美容院とか、やりたかった。ちょっと違うけど、今は、これでありがたいなど思っています。

“鉄分”もあります。公共交通機関が大好きです。

もっばら乗り鉄なんですけど、地図を見て「今度、ここに乗りに行こう」と考える。写真は、そんなでもないですね。ひたすら乗る。

あと、将来の希望としては、徐々に着陸態勢に入って片付けて、うまく着地してあとは若い人たちの応援ができたらいいなあと思っております。

◆ 子どものころの夢ですが、小学生のときは、巨人軍の4番打者になりたいと思っていました。イメージは原辰徳ですね。高校のときは、現実路線に戻って、親と同じ消化器内科医というより内視鏡医になりたいと思っていましたので、その部分に関しては、改めて考えてみると、まあまあ、叶ったような気がします。しかし、人生って長いので、そんなに甘くなくて、だんだん年を取るとプレーヤー側からマネージャー側にシフトしないといけない年代に入ってくるので、なかなか大変ですね。

現在の夢ですが、夢なので適当に言いますが、今の人生経験と記憶を保持したまま、タイムリープして中学1年生まで戻って見たらどうなるかやってみたいですね。でも、できないので、次に話を移しまして、20、30年後の将来なんですけど、とにかく健康でいたいということと、きちんと健診を受けようということと、子どもの成長を見届けたいということですが、未来のことは、よく分かりません。

◆ 私の子どものころの夢は、あまり記憶にないのですが、小学校の卒業文集の将来の夢に、「医者になりたい」と書いてありました。父親が医師で、しかも私が小学校に入学した年に通学路に開業したので、長男だった私は皆から跡取りにならなければならないと刷り込まれていた気がしますね。

これからの夢は、ありがちな話ですが、食べログなどを参考にしてグルメツアーを行いたいです。以前は食べログの評価点数など胡散臭く思っていたのですが、博多の高評価の寿司屋に、「予約が取れたから一緒に行かないか」と知り合いに連れて行ってもらい、実際に食べると、本当に信じられないくらいの美味しさで、それ以来グル

メサイトの高評価のお店を信頼するようになりました。今のところは、身近な福岡に繰り出してお店巡りをしていますが、先日伺った小倉の寿司屋でオーストリアから来た観光客と話す機会があり、彼はミシュランを参考に、10日間寿司屋巡りをするために日本に来たと言っていました。私も感化され、日本国内だけでなく海外グルメツアーにも挑戦したいと思っていますが、そのためには、健康が担保されていないとまずいので、血糖値、コレステロール値、血圧を正常値で維持していきたいですね。

◆ 今、何軒くらいリストをつくっていらっしゃるんですか。

◆ 食べログにそれぞれの料理の100名店が掲載されているので、これを参考にしています。こちらに掲載されているお店は、多分本当においしいと思います。先日伺った、博多の某寿司屋も強烈においしかったです。

◆ それを会報に書くとか。

◆ グルメ日記でいきましょうか。不定期で。

◆ 個人名を出すと、そこへ行ったら、まずいじゃないと言われるかもしれない。味覚には個人差がありますので。

◆ 先生は以前、100歳まで生きていきたいと、言われていたようですが。

◆ 100歳までは絶対行きたい（生きたい）ですね～。

◆ 絶対って・・・

◆ 私は、将来何になりたいとか、あまり思った記憶がないですね。医学部に行こうと決めたのも高校3年の夏ぐらいからです。小学校6年のときの卒業の文集には、大自然の中で過ごしたい、場所がフィンランドって書いているんです。どう

してフィンランドなのかよく覚えていません。もう50年以上前の話です。今からまた20、30年先ってもう、生きていないと思いますけど、まあ、生きていても、かなり認知症が進んでいるでしょうね。医療の面も含めて、ほかの人に迷惑をかけないようにしていればいいなと思います。悲しい話です。

◆ 私は、あんまり深くは考えていなかったように思いますね。人に使われたくないという感じのことはなんとなく思っていて、芸術家（絵描きとか彫刻家とか）になろうかなと思っていたんじゃないですかね。医者になってからは、外科医を選んで、まあ、心臓をやっていたから、手術が上手になりたいと思って、そのことだけを目指していました。

将来は、何をしたいかというのはないんですけども、暗いことばかりではないんじゃないかというふうに、思っています。

私が高校、大学に入ったぐらいのときかなあ、あのころは、人口爆発が起こるとか言って、日本もすぐ人口が多くて、日本人は、うさぎ小屋みたいなところに住んでいるとか、そんなことを言われたりして。人口がある程度減ったら、もっと広い家に住めるし、いいこともいっぱいあるような気がするんだけど、人間って、結構ネガティブなところに目が行ってしまうので、ネガティブにならずに、これからは生きていきたいと思います。

司会 電車の運転手になりたい人が一番多かったかなということでした。

◆ こんなに多いとは、びっくりしました。鉄の乗り物、威力畏るべし。

◆ いや、みんな電車が好きなんだと思っていました。

司会 子どもって、電車、バス、そのへん好きでしょう。動くものが好きですもん。

◆ 働く車とか。

◆ そうそうそう。働く車は、うちの娘も息子もいろいろ持っていました。

◆ 私の夢は、とりあえず借金を完済したら、お金を貯めて、世界一周豪華客船クルーズに乗りたいという夢があって。まあ、あまり年を取らないうちにとっています。

◆ 私も、小学校低学年までの小さいころは電車の運転手でしたけど、そういえば小学校高学年くらいには将来の夢は医者と言っていましたね。しかしちょっと動機は不純だったかも？ というのは、私は根本がわりとのんびりしたいというか、さぼり癖の傾向があって、子どものころ風邪をひいたふりをしてたまに学校を休むことがありました。そして家でゆっくり教育テレビを観るのが好きでした。そういうときに病院に連れて行かれると、優しいおじいちゃんの先生がゆっくり診療していて、なんかそういうのんびりとした雰囲気は憧れて、ああいう先生になりたいなあというのがありました。案外そのあたりがあって、いずれは開業したいというのがあったんですけど。しかし働きだしたら、とんでもない、そんなのんびりしたような環境なんてまったくなくて、それこそ最初の話の36協定という言葉すら知らないまま働きに働き詰めました。そういえば最長54時間眠らずに働き続けたことがありましたね。急患が立て続けに来て、当時大学院生だったので、研究もしながら無休で臨床もしながら。54時間起き続けると、最後には世の中が真っ黄色になるんですね。なんで、きょう黄砂が飛んでいるんだろう？と思ったら、自分の目がおかしくなっているだけでした。いまだにあの経験を忘れられない、そんな時代でしたね。その後は留学も含めてやりたいことはすべてやらせてもらって、夢が叶ってようやく開業しましたが、子どものころの夢のような余裕は全然なくて、精神的にプレッシャーがすごくて（笑）

将来の夢は、やはり私もゆっくり旅行したいですね。本当はアーリーリタイアして、もっと好き

なことだけをして過ごしたいですけどとてもかないそうもないですね。旅行とかその他諸々の趣味とか、例の蒐集の趣味とか・・・わたしは多趣味なのでやりたいことは山ほどあるんですけど、やる時間がない。いつまで働かないといけないのかよく分からないんですけど、当分夢は叶いそうもないです。

◆ 博物館をつくりたいとかは、ないですか。せっかく集めたものをミュージアムにしたいとか。

◆ いろいろ集めると最終的に書籍にしたりして形を残すのが目標になるんですけど、実はその辺はもう夢が現実になりつつあるところですよ。まだ詳細は未定ですが。

◆ 素晴らしい。なんか夢がある話。

◆ 子どものころの夢と現在の夢ですか。まあ、20年したら、私は、たぶんもうこの世にはいないと思いますので、死ぬまでおいしい酒を続けて飲めることが今の夢でしょうか。去年の暮れぐらいから、大酒を飲んだり油物を大量に食べると、戻したりとか気持ちが悪くなったりしまして。器質的には何もなくて、機能性のもののような感じです。たぶん神様が少しやせろよと私に与えてくれた試練だと思っています。でも死ぬ直前までおいしい酒を飲みたいなと思っています。今まではシャンパン1本飲んで、寝る前にジンギンを飲んで全然平気だったのですが、最近はシャンパン1本だけでも、なんとなく堪えるようになってきて、半分にはしています。少しでもいいから美味しい酒を死ぬ直前まで飲めればいいなと思っています。

◆ 皆さん、電車の運転手が子どもの夢だったという方が非常に多くてびっくりしましたが、先生は、いかがですか。ヨットぐらいですか。

◆ いやいや、子どものころの夢って、全然覚えていないですね。何を夢見ていたんだろう。そうか、幼稚園のころは、幼稚園の先生と結婚すると

いう夢を見ていましたね。すみません、それ以外はあまり記憶にないです。

司会 皆さんの夢が少しでも叶うようにお祈りしています。だいたい、太陽系ぐらいの夢を描いておいて、きっと実現するのは四畳半ぐらいですから。

大谷翔平、WBC

司会 そういう夢を見る人たちがうれしかったのは、今年のWBCだと思います。中でも大谷翔平ですね。あんなふうになりたいと思うのは私だけではないと思います。

今年もWBCに始まって、野球のペナントレースも、もう日本シリーズだけになりましたし、MLBも、ワールドシリーズだけになって、ラグビーのワールドカップも決勝と3位決定戦を残すだけになりました。ラグビーに関しては、やっぱりまだ世界は遠いなという感じがしました。スポーツの話題とか、なんでも構いません。皆さま、好きなことを好きなだけしゃべってください。

スポーツをやっている方はおられますか？

◆ 今の翔平選手を見ると、誰もが考えるだけで明るい気分で胸がドキドキするような存在って他にないから、やっぱりスポーツって素晴らしいんだろうなと思いました。

◆ 野球だけでなく、サッカー、バスケ、ラグビーなど、最近日本人の躍進がすごいですね。東京オリンピックでも、日本という地の利はあったとしても、金メダルを30個ぐらい取りました。以前は金メダルを5個取ればもう御の字だという感じでしたので隔世の感があります。日本人の体力が急激に上がった感じはないですが、ピッチャーにしろ、今は150キロが普通ですよ。20年前は、150キロを投げるといって、プロ野球の1人か2人ぐらいだったので驚きです。科学的なトレーニングや技術革新、教え方を含めて良い方向に向かっているのがうれしいですね。

◆ スポーツに関して言うと、レノファを応援し

ているのですが、もう本当にJ3に落ちそうな崖っぷちのところ、この前は引き分けでした。引き分けも、もう負けるかというときに、最後にフリーキックが入って同点になりました。皆さまご存知のように、活躍するいい選手がどんどん引き抜かれていって、J2に上がった直後はそのままの勢いでJ1に行くんじゃないかと思っていたのですが、J1のチームにどんどんシーズンの途中でもおかまいなしに選手が引き抜かれていって、一気に急降下してしまった過去があります。せめて山口県内にわくわくするようなプロスポーツチームがあってほしいなと思って応援しているんですけど。

J3に落ちてしまうと、セミプロみたいな感じなんですよ。J2の選手は副業禁止なんです。J2だとサッカーに専念しないといけないけど、J3の場合は給料が少ないから、練習のない日はどこかでバイトしてみたいな感じなので、それでまた待遇が違ってくる。いったんJ3に落ちると上がってきづらいというところがあって、今も一つ下の大宮が4連勝で、もう崖っぷちのところから入れ替わるんじゃないかぐらいの感じになってきているので、ヒヤヒヤしながら毎週末を過ごしております。

◆ 私はアビスパ福岡を応援しています。今、アビスパ史上最も幸せな時期です。でも、幸せの後には、なにか不幸せが来そうな気がしてしょうがありません。まあ、それはそれとして、確かに、先生が言われたように、ラグビーにしろ、サッカーにしろ、体力が基本的についてきたと思うし、スキルがずっと上がっているし、三笥（薫）なんかも、あれだけ活躍していますし、遠藤（航）なんかもリバプールで先発取ればというような感じになっていますから。指導の仕方とか育成の仕方が進んできたのでしょう。

◆ うちの子どもたちはみんなサッカーをやっていて、長男が高2のときに全国大会に行きました。そのころから、山口県のサッカー協会がカテゴリー別にいろいろな試合を組んだりしているんですよ。中学校や高校では、昔は顧問の先生の個

人的なツテで練習試合とかを組んでいたのが、県内の学校を、実力別に1部、2部、3部といったリーグに分けて年間を通じて試合が組まれていて、ほぼ毎週末、試合ができるシステムにしているんです。なおかつ、サッカーの場合なんかは特に、指導者の講習会が全国的に熱心にされているのですが、それが20年近く続いて、その成果が今出ているのかなあと思います。

ラグビーにしても、山口県は結構ラグビーが盛んなので、小学生ぐらいから、タックルとかはしないけど、タグラグビーという、お尻にひもをつけて、それを取ればもうタックルされたみたいなの形にするような、ああいう裾野が広がって、今のいろんなスポーツの躍進があるのかなと思っています。

司会 ラグビーのアルゼンチン戦を観て思いましたけど、最後の20分、やっぱり動いていませんでした。強いチームは、登録した選手をほぼ全員使っているそうです。日本は、出なかった選手が何人かいて、スタメンも13人ぐらいは、ほぼ固定だったと書いてあったと思います。だから、層の厚さが違ったような気がします。

NHKのBSで、2002年のワールドカップ、ブラジルチームのドキュメンタリーをやっていました。私は全然知らなかったのですが、2002年のワールドカップは、ブラジルは南米予選通過が危なかったそうです。前評判はものすごく低かったけれども優勝したというドキュメンタリーをやっていました。

ヨーロッパではサッカーは始まっていますし、日本でも、J1優勝が決まる。いろいろなものが観られて楽しいです。相撲も、なかなか面白いです。ということで、体は動かさずに、寝転がってテレビを観ている私です。皆さんは、スポーツをされないですか。

◆ うちも、子どもたちが全員もう家を出てしまっていて、夫婦二人になって、市内の非常に登りやすい山に、しょっちゅう登っていたんです。で、コロナでどこにも行けなくなって、どうしようかなと思ってたところ、妻が、乗ってはいなかつ

たんですが学生時代にバイクの中型免許を取っていたことを思い出したんです。私が免許を取ればツーリングに行けるじゃないかと思って、2年半ぐらい前に、発作的にバイクの免許を取ろうと思い立って、昔、学生時代に通った自動車学校に、ちょっと相談に行ったんですよ。そうしたら、「コロナで、今すごく中年の方で取る方が増えてますよ」、「ぜひそれは、奥さんと一緒にツーリングに行かれたら楽しいですよ」と言われました。まあ、営業トークでしょうけど。

その場では、手続きの仕方を教えてもらって、「ネットで申し込むとネット割引がありますよ」とか、「卒業生割引がありますよ」と言われたので、すぐ帰って、中型免許、400ccまでのバイクの免許をインターネットで申し込んで、最後の備考のところに「昭和58年6月卒業です」と書いてたんです。卒業生割引が効くだろうと思って申し込んだのですが、しばらくして返事が来て「書類が確認できませんでしたので、卒業生割引は使えません」と言われて（笑）

無事1か月半ぐらいで取れて、妻と250ccぐらいのバイクに乗ってしばらく県内を楽しく2台でツーリングしていました。最近はインカムというトランシーバーみたいなものをヘルメットに着けて、話しながら走れるんです。話す内容は家で話せばいいようなものなのですが、これが結構楽しいです。

バイクに乗られる方がおられるかどうか分かりませんが、バイクに乗っていると、やっぱり大型バイクというのが気になってくるんですよ。ハーレーとか、1,000cc以上のリッターバイクとか、妻とツーリングしている横をブーンと抜かしていくんですよ。するとなんかこう、もやもやするんです、自分の気持ちが。信号で並んで停まったりすると、明らかにアイドリングの音だけでも威圧感がすごいんです。大型バイクなんて、たぶん200馬力ぐらいあるのですが、1人の人間を運ぶのに、そんな要らないですよ。大型バイクの免許は要るのかどうかというYouTubeがあって、アニメで、1人の大人を200頭の馬が抱えている絵があって、こんなにも要らないだろうみたいな。

でも、どうしても気になるので半年後に大型バイクの免許を取りに行きました。今度はちゃんと卒業生割引が効きました。まあ、免許は取るけど、取ればもやもやした気持ちがなくなって、妻とまた小さいバイクに乗ればいいじゃないと思っていたら、やっぱり大きいのを買っちゃうんですね。イタリア製の800ccのバイクに乗っていたんですけど、どうも外国製のバイクって、いろいろ不具合が出るので、結局日本製がいいなということで、最近カワサキの650ccのバイクにしました。山口県は本当に道がいいので、ツーリングにはいいところに住んでいるなあというのを実感しております。だいたい一回行くと、120、130キロぐらい走って帰るかなという感じですね。スポーツかどうか分かりませんが、ちょっとスポーツに絡めたお話でした。

司会 本日は、大変貴重なお話をお聞かせいただきまして、本当にありがとうございました。まだまだお話ししたいところではありますが、時間の関係で、ここで閉会とさせていただきますと思います。

最後に、沖中副会長にご挨拶をお願いします。

沖中副会長 本日は、皆さまの楽しいお話をありがとうございました。企画をしていただいた広報委員の先生方、誠にありがとうございました。

本日のテーマの働き方改革ですが、先日タクシーに乗った時に、宇部でもタクシーがなかなかつかまらなくて、というような話を運転手さんとしていたら、コロナ禍で需要が減ったので、運転手が辞めたというのは確かにあるのですが、それから戻ってこないのは、働き方改革の影響と言われるんです。勤務時間が制限されるので、もっと稼ぎたいと思っても稼げなくなって、収入が以前よりも少なくなる、だから希望者がいないということでした。医療機関のほうも、若い先生は、アルバイトをしないとやっていけないでしょう。アルバイトなどしなくても、その病院の勤務で生活できるような給与体系、診療報酬にさせていただくのが理想ではないかと思います。

それから、将来の夢ですが、日本は今、円安が止まりません。国力も落ちているし、なんとかまた昔の強い日本が復活することを願うばかりです。最後に、大谷選手の話はあまり出ませんでしたけれども、けがを克服されて、また早く二刀流で活躍されることを願いたいと思います。ほかのスポーツに関しても、山口県出身者ではバスケの河村（勇輝）選手とか、素晴らしい活躍をしておられます。そういう選手にもまた期待したいと思います。本日は、皆さま大変お疲れさまでした。

表紙写真の募集

山口県医師会報の表紙を飾る写真を随時募集しております。

アナログ写真、デジタル写真を問いません。

ぜひ下記までご連絡ください。

ただし、山口県医師会会員撮影のものに限ります。

〒753-0814 山口市吉敷下東3-1-1 山口県医師会総務課内 会報編集係

E-mail : kaihou@yamaguchi.med.or.jp